◇新総長メッセージ

「ワールドクラスへの飛躍」と「東北復興の先導」

東北大学総長
里見 進
1949年生まれ
現職／東北大学総長
専門／外科学一般、移植外科
肝臓外科

二〇一二年四月、第二十一代東北大学総長に就任いたしました里見 進です。皆様よろしくお願いいたします。

本誌『まなびの杜』は、地域の皆様に東北大学のさまざまな活動をご紹介し、東北大学を身近に感じていただけるように、本学の教授陣が中心となり編集している小冊子です。年四回発行しており、これからも市民の皆様のご期待に応えられる冊子をめざしていきたいと考えております。

さて、東北大学は建学以来、「研究第一主義」、「実学尊重」、「門戸開放」を理念に掲げて、多くの人材を輩出し、多くの研究成果を世に送りだしてきました。私は、建学以来の理念をもとに六年間の任期中に取り組むべきことを二つ提示いたします。

その一つは「ワールドクラスへの飛躍」です。特に教育・研究面での飛躍をめざします。まず教育面では「国際的に通用する人材の育成」が大学教育のキーワードになると思います。現代社会は情報化が進み国境のない世界になりつつあり、諸外国の人々と対等に議論する語学力とコミュニケーション能力を身につける必要があります。また研究面では、ごく当たり前の手法として、東北大学の優れている研究をさらに伸ばし、弱点を強化していきます。各研究科、各研究所には自分たちの強み、弱みを分析し、どう変えていくべきかを充分に討議してもらうつもりです。また、研究成果の還元も大切であり、実用化を手助けする体制の整備も必要になります。これまで生命科学系の実用化を支援する組織としての未来医工学治療開発センター（TRセンター）を立ち上げ成果を上げてきましたが、今後は生命科学以外の分野でも強化していきます。このように世界に飛躍するために必要な教育・研究面での課題を明確に設定し、その一つひとつを丁寧に解決しながら前進していきたいと考えています。

取り組むべきことの二つ目としては「東北復興の先導」となることです。東日本大震災から1年が経過しましたが被災地は未だ惨憺たる状況で、復興へのビジョンは描き切れていません。東北大学は被災地の中心にある大学として、東北の復興にとどまらず日本全体の復興を引っぱって行くエンジンの役割を果たすことが求められています。震災後の早い時期に立ち上げた震災復興新生研究機構に全世界の英知を結集し、新しい知識・技術を生みだし、産業の育成や施策を通して、被災地の復興をリードしなければなりません。

その他にも、大学の使命である、人材の育成、研究成果の社会への還元に加えて、市民との接点に配慮した美しく安全なキャンパスの整備も行いたいと思っております。

私が総長を務めさせていただく六年間で、「ワールドクラスへの飛躍」と「東北復興の先導」の二つをめざしたいと考えています。たとえ道半ばになるにせよ、次世代では必ずこれを実現できる強い基盤を築きます。